

CBOT 大豆 5月限 …… 3月末の作付意向調査の発表に向け、14ドル台を試す



データ: Futuresource CBOT 大豆 5月限 日足 10日、20日移動平均

	2月17日 終値	予想レンジ・コア	予想レンジ・ワイド	短期価格目標	中長期価格目標
大豆 5月限	1273-3/4	1240 ~ 1310	1210 ~ 1340	1300 ~ 1310	1350 ~ 1450

先週の大豆は週初から大きく買いが先行。ギリシャ議会が財政緊縮案を承認し市場の不安が後退する中で直近の高値をあっさり更新。午後に発表された USDA ベースラインレポートで次年度の作付減少が予想されたことも強気に作用した。14日にはドル高などを嫌気し穀物が軟調に推移する中にも関わらず、南米の供給不安などが支えとなりしっかりの展開。15日も中国の需要に対する期待などから買いが先行した。16日には手仕舞い売りに押し戻されたものの、下げ幅は限定的。17日は再び大きく値を伸ばした。

**アウトルック (2/21-2/24)**

目先はこのまま強気の流れが続くと予想する。ギリシャ問題はまだ完全にデフォルトが回避されたわけではなく、状況次第ではリスク回避の売りに大きく押し戻されることもあり得るが、それでも流れが弱気に転じてしまうことはないだろう。足元では干ばつの被害が思った以上に深刻なブラジルやアルゼンチンの生産が、目先更に引き下げられるとの見通しが大きな下支えとなっているし、中長期的には割高なコーンへの転作が進むことによって米国の次年度作付が減少、需給が逼迫するとの見方が更に買いを呼び込むことになる可能性は高い。このまま3月末の作付意向調査の発表に向け、13ドルを上抜け14ドル台を試す展開となっても、何ら不思議ではないと考える。

13日に発表された USDA ベースラインレポートでは、次年度の作付が前年比で100万エーカー減少するとの見通しが出され、相場が15セントほど急伸する格好となった。ただその後の上昇局面で相場を主導しているのは、今年度産の受け渡しとなる期近限月。次年度の需給は、まだ大きく相場に織り込まれていないわけではない。今後期先限月中心に買いが先行するような場面が多く見られるようになれば、上昇余地も更に広がることになるだろう。需要面では、やはり中国向けを中心とした輸出動向に注目したい。先週に中国が習近平国家副主席の訪米にあわせて862万トンの買い付けを行ったことの意味は大きく、目先しばらくは同国の買い付けが大きく落ち込まないとの安心感が広がるだけで、相場の下支え効果は相当なものだ。南米の供給不安を背景に輸出が更に回復してくるようなら、上昇ペースも速まってくるのではないだろうか。